ISSN 0911-0852 IZAI to MEKKIN No.93 '09

手術用滅菌医療材料を効率よく使用する工夫

中材業務研究会
斧口　玲子

は　じ　め　に

病院での手術用滅菌医療材料の消費量は病院全体の 1/3 ～ 1/2 に達するといわれている。特に手術件数の多い大学病院などでは大量の滅菌医療材料が使用される。通常、手術用滅菌医療材料の請求・保管・管理は手術部の看護師か行っている。日々の手術の合間に使用量の点検、請求、配送された物品の収納、使用期限の点検 , 収納棚の整理・清掃などの業務を行っている。しかし、手術部看護師の本来の業務は手術支援であり、その他の業務はおろそかになりやすく、使用材料も多岐にわたるため整理や保管管理が難しいのが現状です。この手術用滅菌医療材料の管理をすべて中央滅菌材料部（以下中材）で行うことで、看護師は本来の業務に専念でき滅菌医療材料は安全に無駄なく使用されるのではと考えた。

以前勤務していた大学病院において手術用滅菌機材とともに滅菌医療材料を各手術毎に配送するシステムの導入を実施したので経過について述べる。

病院の概要

救命救急部門を持ち、産科 3 次救急を担当している特定機能病院である大学病院
入院病床数　850 床、外来患者数　約 2600 名、年間手術件数　約 1200 件
手術室　16 室、手術部看護師数　約 70 名、中材職員数　約 55 名

システム導入の準備

従来は手術部の手術機材はすべて手術部の管理となっていて、手術機材の滅菌業務も手術部職員が実施していた。中材業務の業務委託を行うに当たり、すべての手術機材は中材管理に移行され、手術部中材業務に初期委託が導入された。その後、数年を経て手術部滅菌医療材料の管理を中材で行うように業務を拡大していった。

手術部滅菌医療材料の管理を中材で行うシステムに移行するに当たり、現状調査を行った。手術部にあるすべての滅菌医療材料の点検と数量をチェックした。その際に使用期限切れ、破損などで使用できなくなっていた滅菌医療材料が多数発見され、そ